

【現状・問題意識】

1. ふじみ野市の課題

- (1) 2005年(平成17年)上福岡市と大井町の合併により出来た街。8年弱経過した程度では、街の東西融合、市民の一体感の醸成、歴史的・文化的遺産・自然環境等の相互活用がまだまだ不十分といえる。合併に伴う地域コミュニティの同一性の喪失、変質等による影響も若干あるとは思われるが、市民の地域貢献活動への参加があまり活発ではない様に思われる。
- (2) 現状、人口は増加傾向にあるものの、高齢化は着実に進行中。少子高齢化の進行は現役世代(生産年齢)人口(15~64歳)の減少により、市の財政に重大な影響をもたらす。現役世代を中心とした一層の人口流入のための対策・施策が求められる。

2. シティプロモーションの課題

(1) 都市ブランドの構築

『ふじみ野市』と聞いて、即想起出来る様な、明確な都市のイメージ《ブランドカ・都市ブランド》を構築する必要がある。

(2) アピールポイントの認識

観光資源・観光の目玉の発掘・明確化、都市として何をアピールポイントとすべきかを再認識・吟味すべきである。

(3) 情報伝達

都市ブランドやアピールポイントといった内容面のみならず、『それをどのようにして効果的に市内外に伝達・アピールしていくか』、といった情報発信手法の改善・発信力の強化が、高度情報化社会である現在、特に工夫が求められるところである。

(4) 協働の促進

都市ブランドの構築・情報発信力の強化の観点からも、市民と行政の間及び市民相互間における情報交流・協働の一層の促進が、肝要である。面積的には小さい街でありまた人口集積度も高くある程度の同質性も認められることから双方向のスピーディーな意思伝達システムを構築することにより、問題解決に向けた有効策を早期に打ち出せる可能性が高い。

【方向性】

住んでみたい、住んで良かったと思えるまちづくり

ふじみ野市は、市内を流れる新河岸川沿いには今も緑地が残り、また西部地域には武蔵野の面影を残す風景が広がる等、自然環境との共生面で恵まれた地理環境である。今あるものを活かしながら効率的かつ効果的に環境整備を進め、住み続けたいと思える「澄んだ空気、快適な住環境」を維持し、市民の満足度の高いまちづくりを進める。それを市内外へ積極的に情報発信する。

- (1) 合併後の東西融合を促進するため、市内全域から協力を得られるような一体感かつ魅力のあるイベントを増やす。有効な情報伝達手段を構築し、市外に向けても積極的に情報発信する。
- (2) 市民の市政・地域貢献活動等への積極参加。
- (3) 現役世代増加のための、子育て支援、障がい者支援、学力向上、スポーツ支援等の施策の充実、及びPR。
- (4) ブランド力向上のための事業展開、地域ブランドの開発。
- (5) 市の情報発信力強化による、市の魅力の認知、愛着の醸成、市民活動の活性化。
- (6) 情報交流・協働体制・市民参加制度の進展した基礎自治体モデル形成による、住民満足度の向上。同点を積極的にPRすることによる、人口流入への期待。

【具体的提案①】

未来の「ふじみ野市」づくり 市民と行政一体でのPR活動

1. 目的

様々なイベントやコンテストを通じて「ふじみ野市」の街づくりについて興味を持ってもらい、「元気で身近な街」を目指し、市民一人一人がなんらかの形でPRサポーターとして参加、活動してもらい、街全体の活性化へ繋げてゆく。

2. 事業の視点

- ・開催後は、表彰式等を行い、具体的にわかりやすく、結果を出して公表する。
- ・参加へのアピールを積極的に行い、行政を身近に感じてもらう機会をつくる。

3. 事業提案

(1) 未来サミット(子どもサミット)開催:(仮)夢プロジェクト

ふじみ野市への愛着を高め、将来の街づくりへの興味を持たせて、人材育成へつなげる。

- ・子どもたちに市政の仕事を体験させる。
- ・親子で議会へ参加体験を行い、発言、提案をさせ、実際に市の議場にて会議を開催させる。

(2) 世代別アイデアコンテストの開催:(仮)私の街自慢

NPO等の協力や連帯と共に、街づくりへ積極的に参加してもらう機会をつくる、市民と行政との間を取り持つコーディネーター的役割を担う人材育成をはかる。

- ・ふじみ野市で生活している市民を対象に身近な自慢出来るような提案や要望、アイデア等のテーマ自体を募集もしくは提案を行う。
- ・世代別(在学中及び準ずる学生部門、子育て世代部門、シルバー世代部門等)提案を募集、投票をつのり、行政への要望へつなげる。

(3) 市民イベントへのアイデア募集:(仮)ふじみ野市のお宝自慢

- ・市内のイベントについてアイデアを募集、街の魅力の再発見につなげる
市内少年野球チームやゲートボール愛好者などのスポーツイベントの開催による市民交流
- ・地元食材の紹介、特産品や名産品から、「地産地消」等の地域ブランドの開発
市として掲げるスローガンに連動、掲げる事で市民に対して街への認知度や愛着度を高める。

【具体的提案②】 地域の魅力をさらに高め、ブランド化へ

1. 目的

地域に対する「愛着」や、そこに住んでいる「自信と誇り」が芽生えるよう、今ある資源を積極的に活かす。

「ふじみ野市」の美しい自然環境、築き上げてきた文化を大切にしながら、地域そのものの質や価値を高めて、そこに住む魅力や暮らし方を多くの人々に伝えていく。

ふじみ野市のハード面、ソフト面、そして人々が一体的に連動しながらその魅力を発信することで、「ふじみ野市の暮らし」自体をブランド化していく。

2. 事業の視点

今あるものを活かしながら取り組む事業展開「知ってください、ふじみ野市」

3. 事業提案

(1) 自然環境を活用した魅力的なまちづくりの推進 ハード面から

川越市とつながる新河岸川を活用し、ふじみ野市への観光客の流れを作りだす。船着き場を復活させ、川越市から船を運航させることによって、水上・陸上交通をリンクさせ、福岡河岸記念館から上福岡駅までの発展を促すとともに、大井宿も再現し、観光客が川越を観光した後、ふじみ野市も回遊できる仕掛けづくりをする。

レンタル自転車により、市内全体の観光もできるよう道路環境を整備する。

(2) 地域活性化イベントの更なる充実 ソフト面から

地域活性化のイベント（七夕まつり、おおい祭り、桜まつり、ふじみんの活用）を更に充実させ、市の内外に積極的にPRする。イベント時に割引券及び抽選券を配布すると共に、市民の積極的ボランティア活動に期待する。

(3) アピール大使の設置 人と人とのつながりから

情報発信能力の高い人（作家・漫画家・アーティスト・ラジオのパーソナリティーなど）をアピール大使として、20名程度指名し、ふじみんグッズや、市役所職員と同様の名刺（アピール大使として）を配付する。

【具体的提案③】 情報システムの革新

1. 目的

ふじみ野市の課題と方向性を踏まえ、「市民と行政が協働で創る街造り」を一層推進し、その成果を公開するための情報発信力を強化する。

2. 事業の視点

情報インフラの充実・整備ならびに市民の情報活用能力の向上

3. 事業提案

- (1) ソーシャルネットワーク活用による市民・行政双方向の情報交換を可能とするシステムの導入
- (2) 情報活用能力向上のための市民向講座の充実（特に高齢者に対し）
- (3) 市民と行政との「顔を合わせた交流」の更なる充実
＜何が話され、いかなる結果につながったのかを公開する＞
- (4) 市報・ホームページの革新
行政情報発信の戦略化
(例)・ふじみ野市総合振興計画の進展とその評価について定期的にかつ判りやすく説明する（ふじみ野市の一体化）
・ふじみ野市の健康診断書である決算カードの説明付き公開

4. 求めるべき成果

- (1) 市民ニーズの積極的汲み上げを通じて市民の行政への参画意識向上
- (2) ふじみ野市のもつポテンシャルの最大発揮
- (3) ふじみ野市民としてのプライドの醸成
- (4) 政策の透明性を通じて市政への納得性向上
- (5) 行政費用の削減



住みやすい街ふじみ野市・住んでみたい街ふじみ野市への理解促進